

SSKW

海から海へ

No.17 2008.4.12【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ
〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



蝶とカーネーション Butterflies and Carnations 727x606 1994 ©Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。

親子の上手なコミュニケーション講座

2008年3月9日(日)13:30~15:30

電気通信大学創立80周年記念会館3階フォーラム

主催:特定非営利活動法人海から海へ

平成19年度調布市社会教育関係団体補助金事業

今日の社会では、競争や効率重視、家族の崩壊、親子の信頼感や自己肯定感の欠如、愛情不足などを背景とし、対人関係におけるコミュニケーションの問題が指摘されています。このような状況で、今ほど親子関係の重要性が叫ばれている時代はありませんが、どのようにしてそれを作り上げていくのか、確実な解答を得られぬまま、模索状態が続いています。

そこで本法人は、子育て支援の一環として、親と子どもが上手にコミュニケーションをしていくためのワークショップを開催いたしました。以下のように、ワークショップでは子育て中のお父さんやお母さんに参加を促し、ロールプレイ(役割演技)と講演を通して、子育てへの深い理解を得ていただきました。さらに、子育てに関する質問にもお答えし、家庭における親の役割や考え方を学ぶ機会としていただきました。

講師には、調布市在住、地元愛誠メンタルクリニック講師・スーパーバイザー・カウンセラーで、元日本大学文理学部心理学教授 佐藤誠氏、愛誠メンタルクリニック所長で、保育園や中学校でカウンセラーもしている臨床心理士阿部愛子氏にお願いしました。3人の保育士さんと栄養士の森本幸子氏にもご協力いただきました。

内容

1. 開会のご挨拶
2. アイスブレイキング
3. ロールプレイ
4. 手作りおやつタイム
5. わが子探しゲーム
6. 質問に対する回答と講演
7. 閉会のご挨拶

アイスブレイキング

2人ずつグループになり、自分の子どもが動物ならどんなイメージか、また、自分は何からどんな動物のイメージを持たれているのかを話し合いました。親子のイメージが浮かび、すぐに打ち解けた雰囲気になりました。

ロールプレイ

2人ずつのグループになって、いろいろな場面で役割を演じました。たとえば、「A子(またはA男ちゃん)はお母さん(ま

たはお父さん)が台所に立つと、すぐに飛んできて、私も作るというしながら、お母さんと同じことをしたりします。お母さんは危ない道具もあるし、どうしたらよいか困っています」というような場面を仮定し、一方が親の、他方が子の役割りを演じました。このようなロールプレイの後、グループで話し合い、感想を発表しました。役割を演じることで、子どもの立場や気持ちがわかり、これまで気づけなかったことに気づき反省したとおっしゃるお母さんお父さんがたくさんいらっしゃいました。



ロールプレイの感想を話す参加者と阿部愛子氏

手作りおやつタイム

ロールプレイのあと、キャンパス内の託児場所にいた10人のお子さんも会場で合流してもらい、親子、保育士さんと一緒においしいおやつを食べながら、栄養士さんからレシピを聞きました。



森本幸子栄養士が用意したおやつ
(チーズビスケット、おもいものスティック、いちご大福)

わが子探しゲーム

親たちが後ろを向いているあいだ、子どもたちがついたての後ろにしゃがみ、穴から手を差し出します。



子どもを捜すお母さん

子どもたちは保育士さんたちに大きな風呂敷をかけられて見えません。親たちに、手だけを見て自分の子どもを捜してもらいます。すぐに分かるお母さんもいらっし



歓声を上げて立ち上がった子どもたち

やる一方で、迷うお母さんも…。子どもたちが歓声を上げて立ち上がった瞬間、お母さんたちはほっとした様子でした。

佐藤先生が紹介された詩を転載いたします。

質問に対する回答と講演

ワークショップのはじめに質問紙が配布され、参加の皆さんに子育てに関する質問を書いていただきました。佐藤先生は、質問一つひとつに、丁寧に答えられました。

続いて佐藤先生は次のようなお話をされました。(レジュメから概要を転載いたします。)

1. 子どもを育てるとは
 - ①初めての子どもを育てている親は
 - ②幼稚園・小学校へ入っている子どもの親は
 - ③思春期の子どもの親は
 - ④バーナード・ショウは
2. コミュニケーションとは (COMと略す)
 - ①意志や情報の伝達をいう
 - ②伝えたい内容のないCOM
 - ③言葉でのCOM
 - ④触れ合うCOM
 - ⑤COMは一方通行ではない
3. 子どもと話し合う時
 - ①親の聞きたいように「訊く」タイプ
 - ②子どもの話に無関心なタイプ
 - ③早とちりタイプ
 - ④子どもの話をちゃんと聴くタイプ
4. 忙しくて相手ができないとき
 - ①手伝ってもらえる仕事を見つけて一緒にする
 - ②「ちょっと待って、これが終わったらね」
 - ③終わりまで聞く時間の無い時「続きは後でね」
 - ④「忙しいから後でね」を3日間まったく言わないでみる
5. 子どもが話したくなる親になるには
 - ①親が聴き上手になる
 - ②親は一貫した接し方をする
 - ③他人に嫌われても「親だけは自分の味方」と思える関係を常日頃から作っておく



講演をされる佐藤誠先生

子どもの話に耳を傾けよう

(デニス・ウェイトリー)

きょう、少し、あなたの子どもが言おうとしたことに耳を傾けよう

きょう、聴いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても

さもないと、いつか子どもはあなたの話を聴こうとしなくなる

子どもの悩みや要求を聴いてあげよう

どんなに些細な勝利の話も、どんなにささやかな行いも、ほめてあげよう

子どもに何があったのか、何を求めているかを見つけてあげよう

そして、言ってあげよう、「愛している」と、毎晩毎晩

叱った後は、必ず抱きしめてやり、「大丈夫だ」と言ってあげよう

子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、そうなる欲しくないような人になる

「同じ家族の一員なのが誇らしい」と言ってやれば子どもは自分を成功者と思って育つ

きょう、少し、あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう

きょう、聴いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても

そうすれば、子どもはあなたの話を聴きに戻ってくるだろう

多くの気づきがあった、たいへん有意義なワークショップでした。今後、親たちが孤立しないように仲間作りの場となるネットワークを作り、必要に応じて相談活動などのお手伝いをしていく予定です。

美術館だより

『みずきのびじゅつかん』

出版記念展を開催いたします。

おでかけください。お待ちしております。

開館期間

2008年4月27日～7月27日の毎週日曜日

開館時間

13:00～17:00

入場無料

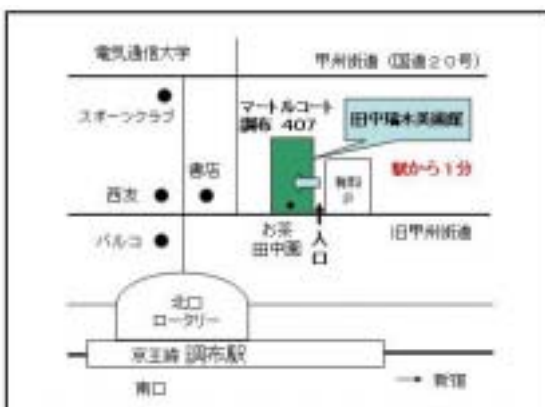
休館日

5月11日 8月3日 10日 17日 24日 31日

展示作品

『みずきのびじゅつかん』(汐文社 2008.4.1)で掲載されている次の油絵15点を展示します(サイズHxWはmm)。

1. よそのねこ 380x455 1985
2. よそのとり 380x455 1985
3. 雨の日のママ 727x606 1988
4. さかな 455x530 1987
5. ブランコ 1167x910 1998
6. 自転車に乗ったねこ 530x652 1992
7. 仲間 1620x1303 1998
8. 花とレモン 727x606 1990
9. とりたちの午後 910x1167 1998
10. ふたりの海水浴 727x910 2003
11. 花火 1240x960 2001
12. ねこの原っぱ 1303x1620 1994
13. 秋のサファリパーク 1167x910 1994
14. わたしの好きなもの 910x727 1998
15. 夜のクリスマス 1167x803 1998



『みずきのびじゅつかん』発売中

これは瑞木さんの15枚の作品を、おかあさんである愛子さんが語る絵本です。

絵がすばらしいのはもちろんですが、瑞木さんが絵を描いたときのエピソードや瑞木さんの日常についても詳しく書かれていて、真摯で純粋で優しく生きている瑞木さんのことを知ることができます。瑞木さんのところが伝わってきます。



『みずきのびじゅつかん』表紙

愛子さんがあとがきで、記しています。「母になり35年たちました。生まれ変わってまた子どもが授かるならば、同じ子どもたちを望みます。親にとって子どもは海のようなです。広くて深くて豊かで不思議で、新しい何かを生み出す海は大きな先生みたい。いろいろなことを教えてくれます。夢や希望をもち続けること。よいところを生かし、その人らしく生きること。優しくすること、などなど。瑞木の絵が語りかけます。みなさまにすてきなプレゼントが手渡されると信じます。」

ぜひ、お手にしていただけたらと思います。

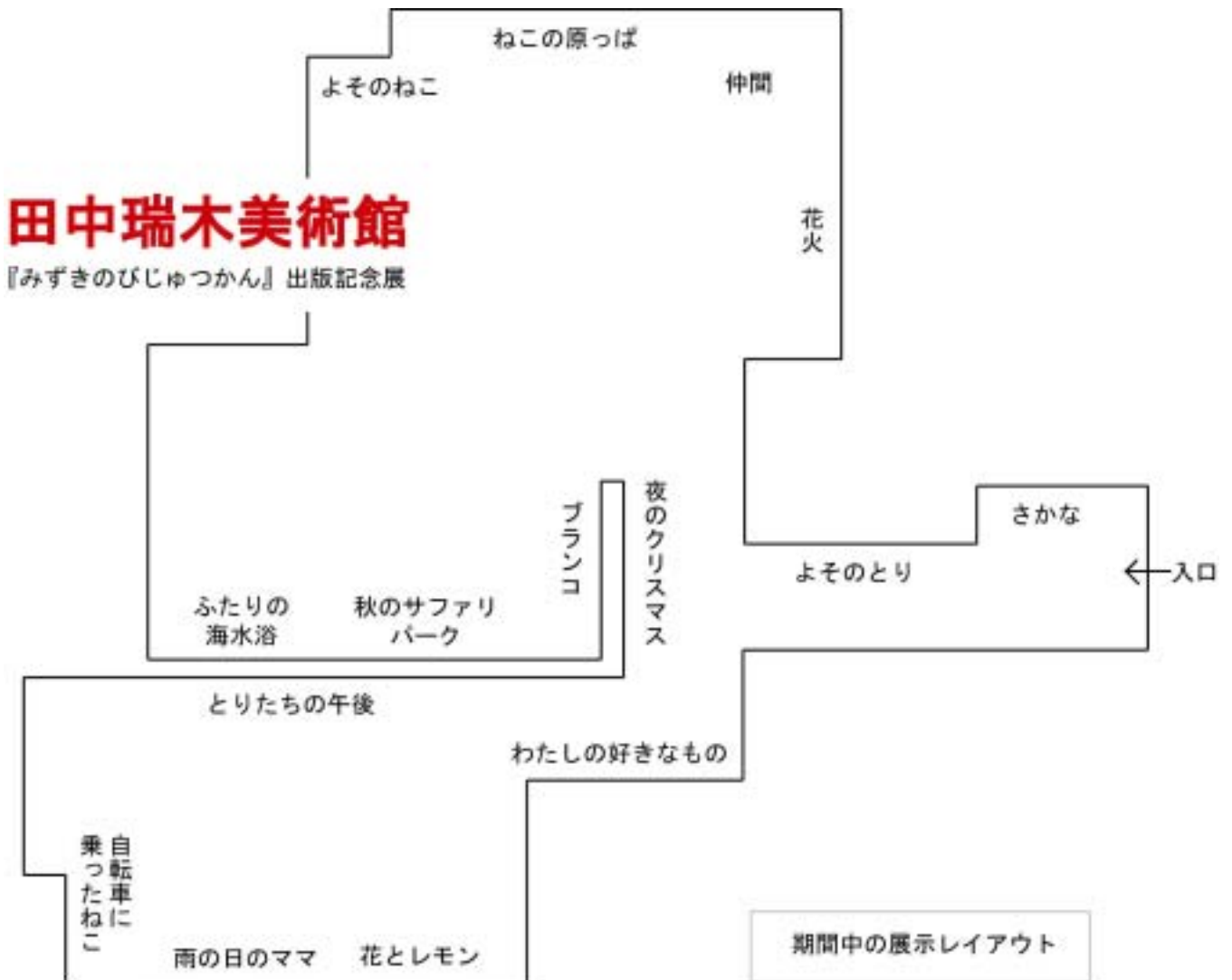
ご注文は全国の書店または汐文社(東京都文京区本郷1-34-5 電話 03-3815-8421 Email: order@choubunsha.com 価格1,300円+税)へお願いいたします。

画家田中瑞木の近況

元気に掃除や洗いの仕事に出かけています。職場が楽しい様子です。週末はいま、「ポイントチアの12月」(仮題)を描いています。HPで絵の進行具合を毎回載せています。すでに10回です。最近黒色のGパンを買いました。気に入っています。日曜にはパンを焼くのも日課の一つです。ミートソースも上手に作れます。そして、大好きなのはコーヒーです。4月10日に35歳になりました。Happy Birthday!



秋のサファリパーク (『みずきのびじゅつかん』より)



平成20年度通常総会 開催のお知らせ

日時 2008年5月25日(日) 午前11時～12時
場所 調布市布田1-32-5 マートルコート調布407
議題 (1) 平成19年度事業報告、会計報告
(2) 平成20年度事業計画、予算
(3) その他

正会員の方へは総会開催のはがきをお送りします。出欠のご返事をお願いいたします。

2008年度会費納入のお願い

2008年度になりました。2008年度会費・寄付金の納入をお願い申し上げます。美術館の活動をはじめ本法人の事業に生かしてまいります。

2007年度は、多くの方々からたくさんのご入金をいただきました。おかげをもちまして、美術館、出前ミュージアム、親子の上手なコミュニケーション講座などの活動ができました。ありがとうございました。

次号にて、2007年度の事業および会計のご報告をいたします。

今後ともよろしく申し上げます。

理事長 阿部公輝

年会費

正会員 3,000円以上
協力会員 1,000円以上
賛助会員(団体) 30,000円以上
(ご寄付も随時お受けしております)

振込口座

①郵便振替: 00110-0-684539
②銀行振込: みずほ銀行 調布支店
普通預金 8082621

口座名称 (①②とも)

特定非営利活動法人 海から海へ

編集後記

画家の誕生パーティに3人の若者A君、B君、C君がやってきた。個別支援者2人とその友人である。

A君ははじめての外国旅行でアメリカへ1ヶ月旅行をしてきた。ユースホステルに泊まり飛行機代を入れて25万円のサバイバル旅行をしてきたとのこと。学生のうちにたくさんの経験をしたいというA君は、個別支援では二人で絵本

(最近はおscar・ワイルド「幸福の王子」)を読んでいる。

もう一人の個別支援者B君は哲学が好きで大学では情報工学を学ぶ。小学生のときからの(障がいのある)友人は今でも大の仲良し。B君の東京での友人C君は、大学院の1年生。研究成果を上げ、研究室の先生から国際会議での発表を勧められている。C君は画家の花火の絵はがきをB君の家で見て感動したと話し、画家の近刊絵本に見入っている。

画家の友人で今は特別養護老人ホームの介護の仕事をして



ているSさんも若者たちと話しがはずむ。画家は、このような人たちとすばらしい時間を共に過ごした。

誰にも役割がある。障がいをもつ人の社会的役割は人をつなげ、大事なことに気づかせることだ。本人は変わらない。変わるのは周りだ。変わることで周りが良くなり、社会が良くなる。

そう言えば、画家が働く職場のOさんから、職員同士でカラオケに行く時にはお誘いしたいとお話があった。画家はその日の来るのを心待ちにしている。(輝)

絵本の出版を記念して、展覧会を開催しませんかと、旧知のO氏より連絡が来た。過去に目にした作品の魅力と絵本のページを重ね、感動を語って止まない電話だった。10年以上もお会いしていないが、画家はO氏を記憶しているという。八ヶ岳のふもとのO氏の家で、過ごした数時間のことを脳裏に焼き付けているのだろうか。

絵の魅力とは? 記憶とは? 私は思う。まなざしは、言葉ではなく語る画家の力であることを。記憶は、画家の生きる力でもあることを。画家、たくましく生きよ。(愛)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

2008年4月12日 海から海へNo.17

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5

マートルコート調布407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価200円

無断転載禁止